

横須賀市自然・人文博物館付属
馬堀自然教育園／天神島臨海自然教育園・ビジターセンター
しぜんきょういくな
自然教育園だより

Vol.1 No.1
(2008年夏号)

2008年6月4日発行
横須賀市自然・人文博物館
046-824-3688



馬堀自然教育園と天神島臨海自然教育園（ビジターセンター）は、横須賀市自然・人文博物館の附属施設です。三浦半島の自然環境の保全に取り組む一方、自然観察や環境教育の場として、一般開放しています。

馬堀自然教育園
046-841-5727

天神島臨海自然教育園(ビジターセンター)
046-856-0717

この一枚！

潮溜まりにいたカミクラゲ。
(3/8・天神島臨海自然教育園)

「自然教育園だより」創刊です！

横須賀市自然・人文博物館自然教育園（馬堀自然教育園・天神島臨海自然教育園）の、自然やイベント情報などを紹介する「自然教育園だより」がはじまりました。自然教育園の魅力について、年4回のペースでお知らせします。

◆自然教育園での出来事（2008年3-5月）◆

－天神島臨海自然教育園－

- 3/1 ウシオハナツメクサが開花しました。
- 3/6 オオバイボタが芽吹きました。
- 3/7 トビの求愛給餌をみました。オオミズナギドリの初認。
- 3/8 カミクラゲを潮溜まりでみかけました。ウミウ24羽のうち10羽が夏羽に変わっていました。
- 3/12 潮だまりでネコジタウミウシを確認、園内初記録。
- 3/15 ウグイスがさえずりました。アメフラシの卵がたくさん打ち上りました。ハマダイコンが一斉に伸びました。
- 3/16 カンムリカイツブリ4羽が保護水域内で索餌、一部は夏羽に変わっていました。ワシカモメ1羽が飛来。カクベンケイガニの初認。アオジがさえずっていました。ミツバアケビが開花しました。
- 3/27 ヒジキが生えている磯で、イダテンカジカを見かけました。ハマエンドウが開花しました。
- 3/29 コチドリの初認。
- 4/11 オオキンカメムシがツルオオバマサキにとまっています。ブドウガイがたくさんオゴノリについていました。
- 4/12 タバコグサが打ちあがりました。
- 4/23 ハマダイコンの葉の上でハナムグリを確認。
- 5/14 ハマウドの葉上でキアゲハの2齢幼虫を確認。
- 5/18 磯にキョウジョシギ約20羽の群れが来ていました。ア

- マガエルが樹林の縁のフェンスで休んでいました。
- 5/21 しけの後で、大量のアラメとカジメが打ち上りました。

－馬堀自然教育園－

- 3/1 上の池でトウキョウサンショウウオの卵囊8腹（16個）を確認。水路内でカワトンボ幼虫、クロスジヘビトンボ幼虫を確認。
- 3/12 アスカイノデが芽吹いていました。冬眠から覚めたコガタズメバチが動けなくなっていました。
- 4/3 トウキョウサンショウウオの卵囊が29腹（58個）に。タチツボスミレ、ウラシマソウが満開を迎えていました。
- 4/10 調査用のトラップにサワガニが9匹入りしました。
- 5/1 トウキョウサンショウウオは大半が孵化を終えていました。上の池でヤブヤンマの終齢幼虫、水路周辺でカワトンボの成虫を確認。
- 5/8 朽木にフサヒメホウキタケが生えていました。
- 5/9 上の池でイモリの求愛行動を確認。
- 5/16 上の池でイモリが産卵、下の池ではメダカが婚姻色に。
- 5/16 ハコネウツギの木をコゲラがつついていました。
- 5/21 モンキアゲハとカラスアゲハがハコネウツギの花で、アオスジアゲハがトベラの花で、それぞれ吸蜜していました。
- 5/21 キアシドクガが10匹くらい、下の池付近をヒラヒラと飛んでいました。

◆この夏の見どころ (6月~8月) ◆

天神島臨海自然教育園



ハマボウは、7月中旬頃から8月中旬まで花をつけます。



ハマオモト(ハマユウ)は、7月の中旬頃から花がみられます。



ハマカンゾウは、8月頃から花をつけます。



ヒトモトスキは、大きなカヤツリグサ科の植物です。



スカシユリは、6月下旬頃から7月中旬頃まで花をつけます。



ネコノシタは、名のとおり葉がとてもざらつきます。



ハマゴウは、地面を這うように生育するクマツヅラ科の低木です。



タイトゴメは岩の上などに生育する小さな草です。



ケカモノハシは、砂丘などに生育するイネ科の植物です。



ハンゲショウ(半化粧)は7月、先端付近の葉の一部が白くなります。



ガタアジサイも6月に開花します。



シリョウの小さな花は7月に見られます。



シロコブツツムシは、驚くと葉からポロリと落ちます。



クサギの花。チョウやスズメガの仲間が吸蜜に来ます。



オオニオカラトシボが元気に飛び回ります。



アカカガシワの雌花。6月に見られます。



落ち葉の積もった浅い池の中で、イモリが暮らしています。



いよいよカフトムシが羽化して出てきます。

◆自然教育園ガイド◆

「潮だまりの生き物」

潮だまりはタイドプールとも呼ばれ、潮が引いた際（干潮時）に潮間帯の底質（岩や砂など）のくぼみに、海水が取り残されて水たまりとなったものをいいます。天神島臨海自然教育園では、潮位の差が大きな3月～8月の「大潮」の干潮時にはたくさんの潮だまりが見られます。



アオウミウシ

潮だまりには、つねに潮間帯を生活場所としている生物のほか、海水と一緒にとり残された生物たち



イソスジエビ

も見るすることができます。潮だまりは、そこにあらわれる生物の多様さや観察の容易さから「自然（天然）の水族館」といわれています。



オヤビッチャ

潮だまりは高さや大きさ、深さなどによって、水温や水質（塩分、酸素量、pHなど）が異なり、そこを利用する生物の種類にも違いがあります。

高い位置の潮だまりは、海と離れている時間が長く、気温の変化にともなう水温の変化、降雨や降雪による塩分濃度や水温の低下、日照による水温と塩分濃度の上昇など、変化が大きくきびしい環境になっています。低い位置の潮だまりは、海とつながっている時間が長く、ひんぱんに海水の交換が行われることから、水温や水質が潮だまりの外の海とよく似ていて、

変化の少ない安定した環境となっています。

天神島臨海自然教育園では、高



カクベンケイガニ

い位置の潮だまりにカクベンケイガニ、フナムシ、トウゴウヤブカ、カラマツガイ、キクノハナガイ、ヨメガカサガイなど、高・低中間の位置にアゴハゼ、イソガニ、ケフサイソガニ、イシダタミガイ、ホソウミニナ、スガイなど、低い位置にカエルウオ、キヌバリ、ハオコゼ、オウギガニ、イソスジエビ、ヤマトモエビ、ウミウシ類などが見られます。

このほか夏から秋にかけての低い位置の潮だまりには、南方から黒潮に乗ってやってきたチョウチョウウオ類、シマスズメダイ、オヤビッチャなど熱帯性の魚の幼魚も姿を見せます。

(萩原 記)

◇ 前回の博物館行事より ◇ - 海藻入門講座(東京海洋大学藻類学研究室共同事業) -

2008年4月20日、うす曇りで時々晴れというますますの天気の下、天神島で海藻入門講座が行なわれました。小学生2名・幼児(5歳)2名を含む市民19名と東京海洋大学藻類学研究室の学生15名が参加しました。まず田中次郎先生から海藻の見方、採集の方法の話をうかがい、10時15分から潮の引いた海岸へ出て、2時間ほど観察と採集を行いました。磯では田中先生(専門は紅藻類)はじめ、珪藻の鈴木先生、ホンダワラ類が専門の博物館高橋研究員から、水深や波の強さなどに応じて分布するさまざまな海藻や、打ち上げられた大型の海藻の説明を聞きながら、各々の興味に応じた

海藻を採集しました。昼食後、田中先生が採集された海藻を緑藻、褐藻、紅藻の3グループごとに分けて解説をされ、種ごとにその特徴を詳しく解説されました。この日に採集された海藻は、昨年新種として記載されたばかりのウスバミル、スガイ(巻貝)の貝殻につくカイゴロモ、長さ10mにもなるアカモク、冬海藻ハバノリ、



押し葉標本にすると美しいユカリやオキツノリなど合計51種を数えました。この講座が2年前に始まってから、3回の観察会で記録された海藻は合計80種になります。最後はそれぞれ好みの海藻の押し葉を作り、しおりや絵葉書にして持ち帰りました。

(大森 記)

◆自然教育園イベント紹介◆

－ 自然観察会 －

1. ホタルの観察会Ⅰ・Ⅱ

馬堀自然教育園では、20年以上にわたる環境整備と保護により、ゲンジボタルとヘイケボタルを少しずつ増やしてきました。この観察会ではこれらのホタルを、ホタルとその環境に負荷を与えぬよう、二日に限って公開します。対象は小学生以上60名(小学生は保護者同伴)。野外保険料50円。Ⅰは6月28日(土)、Ⅱは6月29日(日)。時間はそれぞれ18:00～20:00。馬堀自然教育園。事前申込が必要(ⅠかⅡどちらかのみの応募。締切:6月14日)。

－ 夏休み企画 －

1. スノーケリングによる海の生き物観察会

スノーケリング器材の基本的な使い方を学び、それらを使って魚や貝、エビ・カニ、海藻など、海の生き物の観察を実践します。対象は小学校5年生以上30名(小学生は保護者同伴)。野外保険料50円。1:8月3日(日)13:30～15:30、2:8月9日(土)9:30～16:00。天神島臨海自然教育園。事前申込が必要(全2回への参加が条件。締切:7月20日)。

－ 天神島めぐり －

対象は小学生以上(小学生は保護者同伴)で先着20名(事前申込不要)。野外保険料50円。

1. 海浜昆虫: 初夏

天神島には海岸・草原・林があり、小さな昆虫達にとっては多様な変化に富んだ環境です。この観察会では、園内を歩いてさまざまな初夏の昆虫を観察します。6月15日(日)11:00～12:00。天神島ビジターセンター集合。

2. 海浜植物: 夏

天神島のハマオモトとハマボウは自然分布の北限にあたり、ハマオモトは横須賀市の花にも選ばれています。このほか、ハマナデシコ、ハマゴウなど色鮮やかな植物が咲く真夏の天神島の自然を紹介します。7月20日(日)11:00～12:00。天神島ビジターセンター集合。

－ 天神島ミニ企画展示 －

天神島ビジターセンター1階の展示ケース内で展示されています。

1. 三浦半島の海岸植物

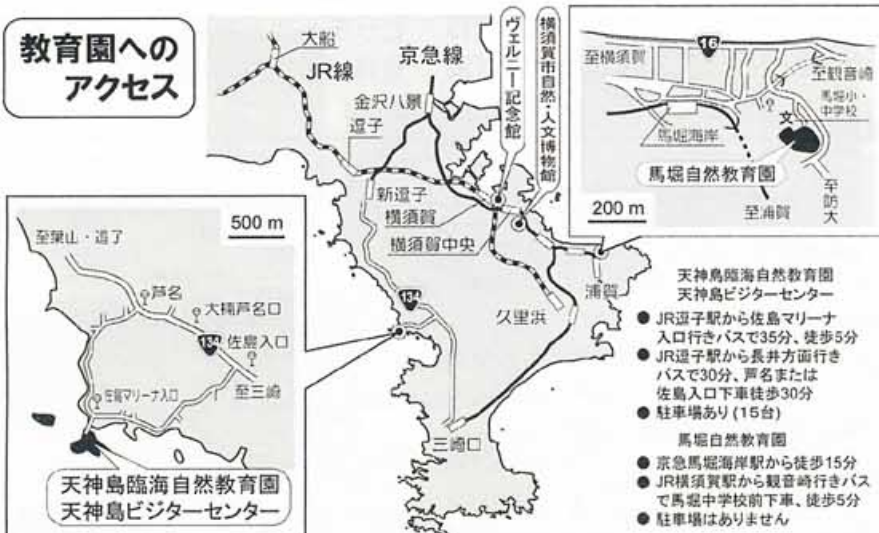
三浦半島は海岸線が複雑なため、砂浜、磯、海崖、干潟、海岸段丘斜面の草地といった多様な海岸環境がつけられ、神奈川県ではもっとも豊かで美しい植物を育ててきました。半島の北東部と南西部では谷が陸から海へ深く刻まれており、南東部では平坦な砂浜が見られ、南部は海岸段丘が発達しています。

ここでは海岸環境の特徴とそこに生育するおもな海岸植物を生態写真でご紹介しています。ぜひご覧ください。

2008年4月26日～10月3日。

◆横須賀市自然・人文博物館付属自然教育園◆

教育園への アクセス



馬堀自然教育園

〒239-0802 横須賀市馬堀町4-10-3
TEL 046-841-5727

天神島臨海自然教育園 (ビジターセンター)

〒240-0103 横須賀市佐島3-7-3
TEL 046-856-0717

博物館本館

〒238-0016 横須賀市深田台95
TEL 046-824-3688
FAX 046-824-3658

博物館ホームページ

<http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/>

◆自然教育園をご利用の際の注意◆

- ①動植物の採集はできません。
- ②ペットを連れての入園・レジャー用品の持ち込みはご遠慮ください。